

経営比較分析表（令和元年度決算）

香川県三豊市 西香川病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	3	-	ド訓	臨
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
65,239	11,789	非該当	25:1	

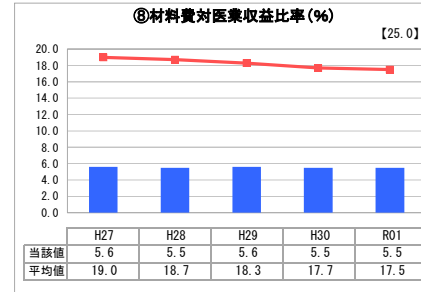
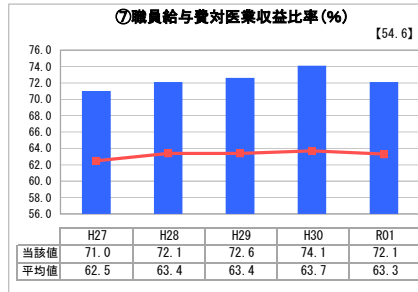
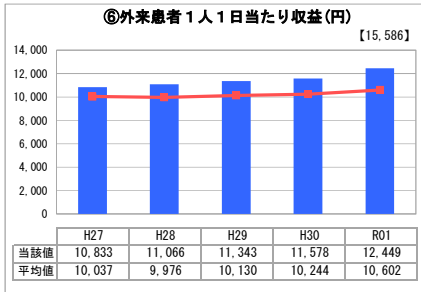
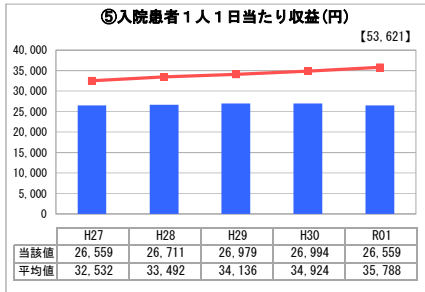
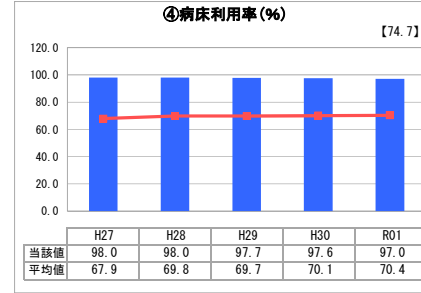
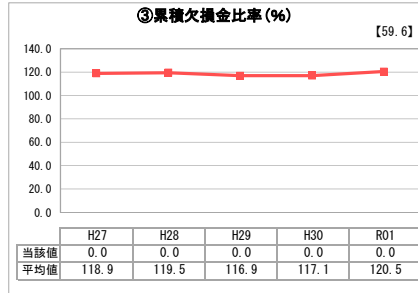
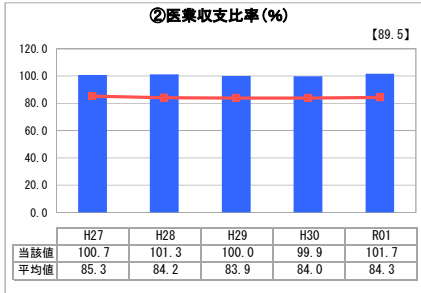
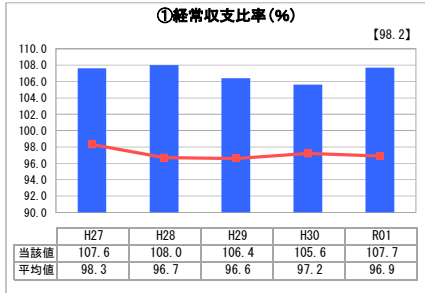
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

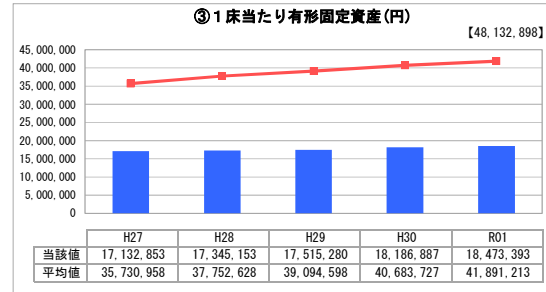
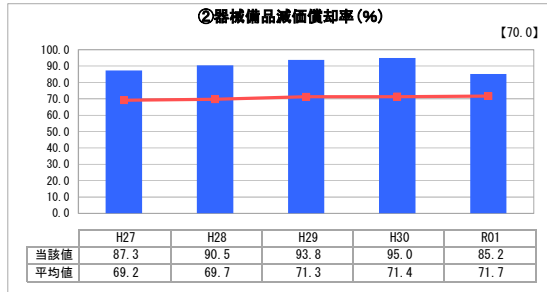
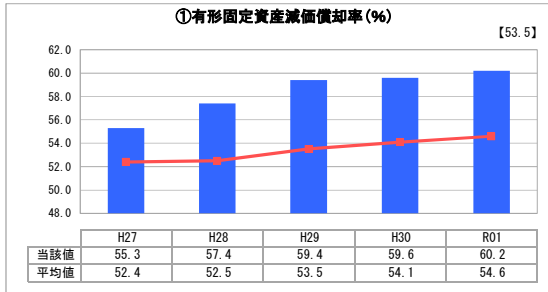
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
-	90	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
60	-	150
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
-	90	90

グラフ凡例	
■	当該病院値(当該値)
—	類似病院平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)		
再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	平成18
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

県より認知症疾患医療センターの指定を受け、充実した支援体制による専門的診断、治療やこころのケアを行っている。また、講演会やイベントを通じて認知症への理解・予防・対応、また患者やその家族等への理解を深めるための認知症施策を進めている。

精神科においては、在宅や施設での対応が困難な認知症患者に対して一時的入院治療を提供し、患者が住み慣れた地域での在宅復帰を支援し、地域の認知症治療の中核医療施設となっている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成18年度から三豊・観音寺市医師会との指定管理制度を導入し、現在、利用料金制となっている。経常収支比率は100%を超えて黒字で、医業収支比率もほぼ100%を超えて推移しており、類似病院平均よりは高い。これに伴い累積欠損比率も当該数値なしという結果になっている。入院患者単価は類似病院平均を下回っているが、病床利用率は、毎年ほぼ100%を維持し、外来患者単価については平均より高い。また、職員給与費対医業収益比率については類似病院を上回っており、職員配置が適正か検討するとともに、材料費を抑えるなど、支出削減等の経営努力により収益性を確保している状況にある。

2. 老朽化の状況について

建物は、建築後30年以上経過し老朽化が進行しており、患者の療養環境の整備が必要な状況となっている。また、医療機器等についても、機械備品減価償却率が85%を超えており、医療水準の維持・向上を図るため、耐用年数を大幅に過ぎた機器の更新等の整備が必要となってきている。

将来にわたって病院事業を継続していくためには、施設設備の再整備のための中長期的な投資・財政計画が必要である。

全体総括

現在、収支は黒字で経営自体には問題はない。しかし、固定資産投資が行われていない状況を考慮すると、今後、多額の施設・設備投資費用の発生が見込まれるため、病院事業全体として厳しい経営状況となることが予想される。

地域に必要な医療を提供するために、引き続き指定管理者制度による管理、運営を行い、指定管理者とさらなる連携を図り、経営の効率化、収支の効率化に取り組む。

また、新公立病院改革プランについて、すでにプランは策定しているが、令和3年度に改定を予定しており香川県地域医療構想を踏まえ、西部構想区域内の機能分化と連携促進に向けての医療提供等ができるよう、新改革プランへ見直しを行ってきたい。